

①Int.Cl.
B 65 d

②日本分類
133 C 04
133 A 31
133 A 23

日 本 国 特 許 庁

③実用新案出願公告
昭46-29508

④実用新案公報

④公 告 昭和46年(1971)10月12日

(全3頁)

1

開放容易容器

実 願 昭44-108281
出 願 昭44(1969)11月15日

優先権主張 ⑤1968年11月15日⑥アメ
リカ国⑦76035

考 案 者 ニツク・シハデー・コーリー
アメリカ合衆国イリノイ州・ワ
ス・ロッド・ドライブ6858
出 願 人 コンチネンタル・キヤン・カンパ
ニー・インコーポレーテッド 10
アメリカ合衆国ニューヨーク州ニ
ューヨーク・サード・アベニュー
633

代 理 人 弁理士 緒股 清 外2名

面の簡単な説明

第1図は、本考案による開放容易構造を有する
器の斜視図、第2図は、第1図の2-2線によ
断面図(取出口の構造及びその上に置かれた閉
テープを特に説明)である。

案の詳細な説明

考案の背景

本考案は、開放容易容器、特に、圧力感知テー
により閉鎖された取出口を有する型の開放容易
器に関する。

圧力感知テープにより蓋をされた取出口を有す
型の開放容易容器は従来、閉鎖テープが付けら
れている時でも取除かれた時でも、取出口の切放
端が容器内容物に曝される様に構成されている
、閉鎖テープが用いられる容器は通常、鋼板等
化され易い金属で作られ、このような端の酸化は
器内容物の汚染または、味もしくは外観の悪化
原因となる為に禁物である。よつてこの様な欠
を除く為に容器内面を酸化防止被覆(フィルム
で被覆)の方法であるが、テープにより
鎖される開放容易容器に於ては、取出口の打抜
の際に形成された切放し端が無被覆の面を露露
、従つてここに酸化が発生し得るのである。こ

の切放し端の酸化を防ぐには、ここに別の操作で
酸化防止被覆を施す事を要するが、この操作は容
器の生産率を著しく減殺し、また原価高を招来
するのである。

さらに、打抜かれた口の切放し端が露出されて
いる為に、使用者がテープ除去の際に指を切る等
の負傷を受ける事が屢々生じ、この種の危険は、
子供の手の届く所に容器を放置した場合に特に多
く生じ得る、と云うのは、周知の如く子供は好奇
心が強く、物を試して見たがるものであるから、
容器をあけて見ようとして切放し露出端で指を切
る事がままあるからである。

本考案の総括

本考案は、閉鎖テープによる蓋及び、従来の容
器の欠点を排除し得る様に構成された開口(取出
口)を有する改良された開放容易容器を提供する
事を目的とする。

本考案による容器に於ては、開口の周縁部は下
向きに傾斜したフランジを有する様に作られ、こ
のフランジの内端は上向きの曲部に連なり、この
曲部の上端は周縁部の上面に至り、フランジ及び
曲部は、開口の周りの端板の上面が曲部の周辺に
切する様に作られる。

以下、図面に示す実施例に就きさらに詳細に説
明する。

実施例の説明

図示の容器10は本体11、底端板12及び天
井端板13を有し、12及び13は二重巻締め1
4により本体11に取付けられ、天井板13には
取出口(開口)15が作られ、16は閉鎖テープ
17により蓋をされる。

天井板13及び底板12は、鋼、アルミニウム
等の金属板から作られ、両端板の内面には、その
酸化を防ぐ為に銹鍍金または適当な被覆が施され
る。前述した如く金属の酸化は、容器内容物を汚
染する為またはその味もしくは外観を損う恐れが
ある為に好ましくないのである。

天井板は端板18を有し、この中に取出口16
が打抜き等により作られるが、打抜き作業の結果

2

3

この口に切放し端19が形成され、この端19には勿論、何等の酸化防止被覆が施されていない為に金属が容器の内容物に曝され、よつて悪結果を招き得るのである。

本考案によれば、口16の最初の打抜きの後に口16の周縁部は、下向きに傾斜したフランジ21を形成し、21から上向きの曲部22が出る様に形成され、さらにフランジ21及び曲部22は端板18の上面の延長が曲部22に実質的に切す様に作られる。これにより、切放し端即ち自由端19は端板18の上面から下方内方に曲げられ、よつて鋭端が露出され無くなり、よつて、切り傷等の負傷を与える可能性が極小にされると同時に曲部22により、端板18が取出口の周りで補強されるとともに容器10からの内容物の自由流出が助けられる。

閉鎖テープ17は取出口16に重なる寸法に作られ、16の傾斜フランジ21の周りの部分に接されるが、この際、曲部22が前述の如き位置にある事により、テープ17も曲部22に切し、よつて22にもテープ17が接着される。テープ17は、プラスチック、金属箔で裏打ちされた紙、プラスチックで裏打ちされた紙等の弾力性、高引強度材料で作られる事が望ましく、さらにこれ

4

らの材料は、容器内容物の汚染を防ぐ為に空気不透過性である事が望ましい。テープ17の下面には適当な圧力感知接着剤の薄いフィルム28がつけられ、28は端板18に押付けられてシールを形成する。圧力感知接着剤の剝離抵抗は、充分に小であつて、如何なる型の開放用工具をも要する事無く端板面からきれいに剝離され得る事を要する。

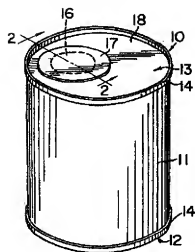
以上説明を了るに当り本考案の実施態様を下記する。

(態様) 実用新案請求の範囲による容器に於て、上記曲部は、上記端板の上面中の面(上面の延長)が上記曲部に実質的に切する様に置かれる。

15 実用新案登録請求の範囲

端板及び、上記端板に可脱に接着されたテープにより閉鎖される様に上記端板中に作られた開口を有し、上記開口が、上記端板の面から下方に傾斜して内端に於て上向きの曲部に連なるフランジにより囲まれ、よつて上記開口を作る際に上記端板中に作られた自由端が上記フランジの上方に於て上記フランジに面する様に置かれている、開放容易容器。

第1図



第2図

